



平成25年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社

コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経営管理部長 (氏名) 鷺本 晴吾

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

TEL 03-5733-2121

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第1四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第1四半期	243	△66.3	△249	—	△217	—	△148	—
24年9月期第1四半期	721	△23.5	△134	—	△134	—	△129	—

(注) 包括利益 25年9月期第1四半期 △148百万円 (—%) 24年9月期第1四半期 △114百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第1四半期	△124.66	—
24年9月期第1四半期	△109.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第1四半期	5,190	2,343	44.3
24年9月期	6,417	3,632	36.8

(参考) 自己資本 25年9月期第1四半期 2,297百万円 24年9月期 2,362百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	100.00	100.00
25年9月期	—	—	—	—	—
25年9月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月期の期末配当予想については未定としております。

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

当第1四半期においては、前期から持ち越しとなっていた大型の企業投資案件の回収を見送り、開発型流動化等のアレンジメント案件も継続取組みとなったことにより、連結業績は厳しい進捗ではありますが、引続きこれらの案件の実行に向けて調整を続けております。実行に至った場合には、各案件の条件(金額等)により、業績に著しい影響が出ることが想定されるため、現段階において合理的な業績予想の提示は困難であることから連結業績予想は未定とし、これらの案件による業績への影響が判明次第、提示させていただくことといたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) FINTECH GIMV FUND,L.P.
(注)詳細は、添付資料4ページ「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期1Q	1,209,243 株	24年9月期	1,209,243 株
② 期末自己株式数	25年9月期1Q	— 株	24年9月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期1Q	1,191,843 株	24年9月期1Q	1,191,671 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する情報	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、震災の復興需要など景気の下支え要因があったものの、海外経済が減速基調であったことから輸出や生産が減少し、弱含みで推移しました。年末にむけての円安、株価上昇への動きはあったものの、先行きは依然として不透明であります。

このような経済環境において当社グループは、企業を支援するブティック型投資銀行として、投資銀行事業と企業投資を軸に事業を展開しました。投資銀行事業は、国内外の産業界・公共部門の資金調達ニーズに対しストラクチャードファイナンス（仕組み金融）を使った金融サービスを提供すべく、開発型流動化や再生可能エネルギー関連を始めとしたファイナンス・アレンジメント案件の獲得に注力いたしました。企業投資においても、外部投資家を招聘した事業承継に係る中堅老舗企業への共同投資や、ソフトウェア開発のベンチャー企業への投資などを実行するとともに、投資先企業の発展・成長を促すアドバイザーとして事業の支援を行っております。

一方で、当社グループは当期の黒字化を達成すべく、グループ再編を進めております。投資銀行事業をより効率的かつ強力に推進し、プリンシパルインベストメント事業との密接な連携を可能とするため、フィンテックグローバル証券(株)で行ってきた投資銀行事業に係る営業リソースを当社に移管し、投資銀行事業を当社で行う体制としました。また、公共財関連事業を行う(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングは、事業の一部譲渡及び業務提携により、ソフト開発・保守にかかる原価を低減する一方、公会計コンサルティング事業に注力していくことで、通期で営業黒字化が可能な体制としました。この他、FINTECH GIMV FUND, L.P. (FGF)については、実質的な支配関係がなくなり子会社に該当しないと判断されるため、当第1四半期より連結の範囲から除外されております。これにより、FGFについては外部出資者分が連結財務諸表に計上されずに、当社出資持分相当額のみが計上されることとなります。

このような事業展開をしたものの、企業価値が大きく向上した大型の企業投資案件の回収は当第1四半期においては見送り、開発型流動化等のアレンジメント案件も取組みを継続中であることから、当第1四半期連結累計期間の売上高は243百万円（前年同期比66.3%減）となりました。利益面におきましては、営業損益は249百万円の営業損失（前年同期は134百万円の損失）となり、経常損益は為替差益28百万円の計上により217百万円の経常損失（前年同期は134百万円の損失）となりました。四半期純損益は、事業譲渡益66百万円の計上により148百万円の四半期純損失（前年同期は129百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

①投資銀行事業

フィンテックグローバル証券(株)は、開発型流動化、再生可能エネルギー関連等のアレンジ受託に注力し、案件組成へ取組みを継続いたしました。収益の中心は事業再生案件等のアレンジやフィナンシャルアドバイザー業務の手数料収入となりました。この結果、投資銀行事業の売上高は16百万円（前年同期比76.4%減）、営業損失は16百万円（前年同期は9百万円の損失）となりました。

②アセットマネジメント事業

フィンテックアセットマネジメント(株)は、新規の不動産アセットマネジメント案件獲得により受託資産残高を着実に増加させました。また、中堅老舗企業の事業承継において、LBOファイナンスを使い、外部投資家とともにファンドを介した共同投資を実行しております。FGIキャピタル・パートナーズ(株)は、昨年のAIJ問題の影響により、依然として独立系運用会社への逆風は強く、年金基金等は新規投資に慎重であることから受託資産残高の積増しには至りませんでした。

この結果、アセットマネジメント事業の売上高は49百万円（前年同期比32.7%減）、営業利益は4百万円（前年同期は69百万円の損失）となりました。

③プリンシパルインベストメント事業

当社（フィンテックグローバル(株)）は、当社グループ内外で見出される投融資機会に対し、厳選して資金拠出しております。当第1四半期にはフィンテックアセットマネジメント(株)の組成するファンドやスマートフォン用アプリ開発のベンチャー企業へ新規投資しております。なお、大型の企業投資の投資回収については当第1四半期では見送ることとし、第2四半期以降で引き続き検討して参ります。この結果、プリンシパルインベストメント事業の売上高は10百万円（前年同期比97.6%減）、営業利益は8百万円（前年同期比88.1%減）となりました。

④その他投資先事業

㈱バルスは、持家サービス部門のイベント・キャンペーンの効果や賃貸サービス部門が注力してきた個人賃貸支援サービスの反響が出始めたことにより、同社単体の売上高は123百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は5百万円（前年同期比28.5%減）となりました。

Crane Reinsurance Limited(Crane)は、当第1四半期において勘定書の交付はなく、前期までに交付された勘定書により当四半期に対応する経過保険料、保険金支払及び経費を計上しております。このため、当第1四半期は売上計上にはいたらず（前年同期は売上計上なし）、営業損失は48百万円（前年同期は13百万円の損失）となりました。なおCraneは、平成25年1月4日にHardy Underwriting Limited等から再保険契約に基づき1,455百万円の支払を求める仲裁の申立てを受けておりますが、Craneはその請求内容の妥当性を裏付ける説明やデータを要請し、正当な支払義務の発生する金額の認定を仲裁手続において主張していく方針であります。

これらの主な子会社及び他の子会社の経営成績により、その他投資先事業の売上高は124百万円（前年同期比1.7%増）、営業損失は42百万円（前年同期は35百万円の損失）となりました。

⑤公共財関連事業

㈱パブリック・マネジメント・コンサルティングは、平成24年12月12日に㈱システム ディに自治体向け公会計パッケージソフトの開発・販売等に係る事業を一部譲渡するとともに、公会計システムに関するロイヤルティに係る一部収益を受け取り、連携して営業展開を図る業務提携をいたしました。これにより、課題であったソフトウェアに係る開発・保守の効率化に目処をたて、主力である公会計導入コンサルティング事業に注力するとともに、㈱システム ディから公会計システムを購入し販売することによる収入で黒字化することを見込んでおります。

当第1四半期においては、公共財関連事業の売上高は45百万円（前年同期比0.0%減）と前年同期とほぼ変わらず、ソフトウェアの保守・開発に係る原価低減の効果が出始めたことにより、営業損失は3百万円（前年同期は41百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末より19.1%減少し、5,190百万円となりました。これは主としてFINTECH GIMV FUND, L.P. (FGF)の連結除外により、現金及び預金が605百万円、営業投資有価証券が499百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末より2.2%増加し、2,846百万円となりました。これは主として、未払法人税等が24百万円減少したものの、保険契約準備金が29百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より35.5%減少し、2,343百万円となりました。これは主として、FINTECH GIMV FUND, L.P. (FGF)の連結除外により為替換算調整勘定が178百万円増加し少数株主持分が1,223百万円減少したことに加え、四半期純損失の計上及び利益配当により利益剰余金が245百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

上記「(1) 経営成績に関する定性的情報」に記載の通り、当第1四半期においては、前期から持ち越しとなっていた大型の企業投資案件の回収を見送り、開発型流動化等のアレンジメント案件も継続取組みとなったことにより、連結業績は厳しい進捗であります。引続きこれらの案件の実行に向けて調整を続けております。実行に至った場合には、各案件の条件（金額等）により、業績に著しい影響が出ることが想定されるため、現段階において合理的な業績予想の提示は困難であることから連結業績予想は未定とし、これらの案件による業績への影響が判明次第、提示させていただくことといたします。

なお当期に入り、当社グループは黒字化に向けたグループ再編の動きを着実に進めております。投資銀行事業の強化と効率化のため、当第1四半期にフィンテックグローバル証券(株)の投資銀行事業に係る営業リソースを当社に移し当社のプリンシパルインベストメント事業と連携して事業を遂行する体制としており、同社株式は平成25年3月1日（予定）に外部に譲渡することといたしました。公共財関連事業を行う㈱パブリック・マ

ネジメント・コンサルティングは、当第1四半期で実行した事業の一部譲渡及び業務提携により原価が低減する一方、公会計コンサルティング事業に注力していくことで通期での営業黒字化が可能な体制としています。またアセットマネジメント事業については、FGIキャピタル・パートナーズ(株)が他社との提携等も含む抜本的な事業再構築を検討してまいります。このように各事業の変革を進め事業遂行体制を整備しながら、投資銀行事業と企業投資の両輪で顧客企業の成長、事業拡大を支援し、これらを収益化していくことで、当期の黒字化を達成していく所存であります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間より、FINTECH GIMV FUND, L.P. (FGF) は、当該組合のジェネラルパートナーへの投資の助言等を行うフィンテックグローバルキャピタル合同会社の当社からの独立性が確認されるなどの、当社グループと当該組合との関係の変化を総合的に検討した結果、実質的な支配関係がなくなり子会社に該当しないと判断したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,522,754	1,917,012
売掛金	132,127	149,247
営業投資有価証券	2,400,089	1,900,683
繰延税金資産	7,089	8,763
営業貸付金	2,480,482	2,473,700
その他	205,914	118,708
貸倒引当金	△2,025,903	△2,018,998
流動資産合計	5,722,554	4,549,117
固定資産		
有形固定資産	151,253	145,519
無形固定資産		
のれん	259,642	227,658
その他	20,535	9,819
無形固定資産合計	280,177	237,478
投資その他の資産		
投資有価証券	51,419	48,571
その他	212,536	209,397
投資その他の資産合計	263,955	257,969
固定資産合計	695,386	640,967
資産合計	6,417,941	5,190,084

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	24,151	28,834
1年内償還予定の社債	16,000	16,000
短期借入金	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	2,171	2,171
未払法人税等	27,806	3,761
預り金	474,164	484,007
賞与引当金	26,730	24,231
その他	196,868	278,288
流動負債合計	807,893	877,295
固定負債		
社債	56,000	56,000
長期借入金	2,986	2,485
繰延税金負債	83,335	79,453
退職給付引当金	99,310	105,395
保険契約準備金	1,648,449	1,677,919
その他	87,304	47,575
固定負債合計	1,977,386	1,968,828
負債合計	2,785,279	2,846,124
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,312,517	2,312,517
資本剰余金	5,183	5,183
利益剰余金	277,772	32,407
自己株式	△52,412	△52,412
株主資本合計	2,543,061	2,297,695
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,333	△345
為替換算調整勘定	△178,416	—
その他の包括利益累計額合計	△180,749	△345
新株予約権	18,005	18,055
少数株主持分	1,252,344	28,554
純資産合計	3,632,661	2,343,960
負債純資産合計	6,417,941	5,190,084

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
売上高	721,870	243,415
売上原価	403,040	34,942
売上総利益	318,830	208,472
販売費及び一般管理費	453,061	458,134
営業損失(△)	△134,231	△249,662
営業外収益		
受取利息	1,516	268
為替差益	—	28,845
雑収入	2,426	441
その他	111	2,948
営業外収益合計	4,054	32,503
営業外費用		
支払利息	2,945	123
社債利息	—	171
為替差損	1,393	—
その他	159	—
営業外費用合計	4,498	295
経常損失(△)	△134,674	△217,453
特別利益		
事業譲渡益	—	66,355
新株予約権戻入益	866	—
その他	—	1,707
特別利益合計	866	68,062
特別損失		
投資有価証券売却損	—	587
投資有価証券評価損	240	179
関係会社株式評価損	7,740	—
その他	383	—
特別損失合計	8,364	767
税金等調整前四半期純損失(△)	△142,173	△150,158
法人税、住民税及び事業税	3,932	3,319
法人税等調整額	△258	△5,556
法人税等合計	3,673	△2,237
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△145,846	△147,921
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△15,917	651
四半期純損失(△)	△129,929	△148,572

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△145,846	△147,921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,443	△345
為替換算調整勘定	23,680	—
その他の包括利益合計	31,123	△345
四半期包括利益	△114,723	△148,266
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△118,830	△148,917
少数株主に係る四半期包括利益	4,107	651

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメント 事業	プリンシパ ルインベス トメント 事業	その他 投資先 事業	公共財関連 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	40,578	71,438	443,348	121,297	45,206	721,870	—	721,870
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	31,500	1,950	—	900	—	34,350	△34,350	—
計	72,078	73,388	443,348	122,197	45,206	756,220	△34,350	721,870
セグメント利益 又は損失(△)	△9,455	△69,527	74,695	△35,958	△41,582	△81,829	△52,402	△134,231

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△52,402千円には、セグメント間取引消去95,695千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△148,097千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業40,500千円、アセットマネジメント事業46,500千円、その他投資先事業1,500千円、公共財関連事業15,000千円を負担しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメント 事業	プリンシパ ルインベス トメント 事業	その他 投資先 事業	公共財関連 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	15,995	48,173	10,734	123,326	45,185	243,415	—	243,415
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,000	1,243	—	900	—	3,143	△3,143	—
計	16,995	49,416	10,734	124,226	45,185	246,558	△3,143	243,415
セグメント利益 又は損失(△)	△16,468	4,695	8,887	△42,149	△3,536	△48,572	△201,089	△249,662

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△201,089千円には、セグメント間取引消去29,997千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△231,086千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィ

ンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業11,000千円、アセットマネジメント事業9,000千円、その他投資先事業4,929千円、公共財関連事業4,500千円を負担しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。